Section 4 重要度 ★★★★★

# 収益・費用の繰延べ

## はじめに

あなたは×1年12月1日に店舗の火災保険料1年分を現金で支払い、全額支払保険料勘定(費用の勘定)で処理しました。決算手続中にこれを見た顧問税理士のK氏は、「この保険料ですが、支払った金額の全部を当期の保険料にしてはいけないんですよ。来年の分(×2年1月1日から11月30日までの分)が入っていますからね」とのこと。
では当期分の保険料だけを費用にするには、どうしたらいいのでしょうか?

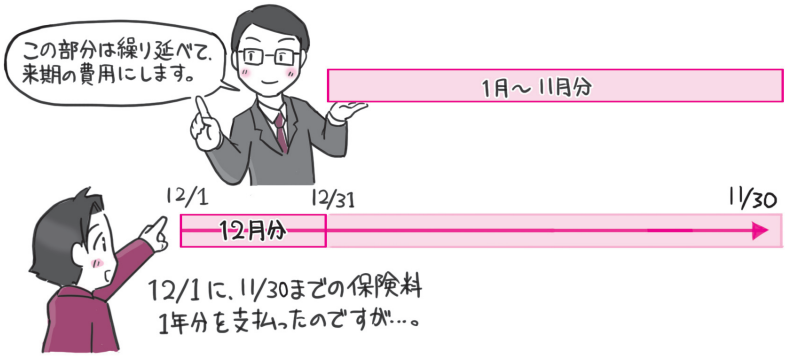
## 1 費用の繰延べとは

このような場合には、**すでにX1年12月1日に計上した1年分の保険料から来年度分(X2年1月1日から11月30日までの11カ月分)の保険料を差し引いて、当期分の保険料に修正する処理が必要**です。

この処理を**費用の繰延べ**といい、費用を正しく計上するためには大切な処理です。

なお、繰り延べた来年度の費用を**前払費用**といいます。

前払保険料の処理の考え方は、前の Section の消耗品の費用処理にそっくりです。この Section の前に確認すると、より効果的です。




## 2 費用の繰延べの処理

費用の繰延べの処理については、(1)保険料を支払ったとき、(2)決算になったとき、の2つに分けて考えます。

(1)支払時 → (2)決算時

### (1)支払時

**例4-1**
あなたは、X1年12月1日に保険料(1年分)¥12,000を現金で支払った。

保険料を支払ったときには、**保険料勘定(費用の勘定)の増加**として処理します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借)保　険　料 | 12,000 | (貸)現　　金 | 12,000 |

(2)決算時

**例4-2**

X1年12月31日になり、決算をむかえた。

ここでは費用の前払分があるので、保険料 ¥12,000から、来年度分の保険料11カ月分(X2年1月1日から11月30日までの分)を差し引くために、**保険料勘定の貸方**に記入します。また、前払分は資産である[01]ため、11カ月分 ¥11,000を前払費用として**前払保険料勘定(資産の勘定)の借方**に記入します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借)前払保険料 | 11,000 | (貸)保険料[02] | 11,000[03] |

このように処理することにより、保険料は当期分(1カ月分)の ¥1,000[04]となります。

01)この時点で解約すると、11カ月分の保険料は返ってきます。

02)費用の減少は貸方に記入するのでしたね。

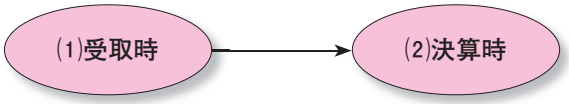
03)金額は次のように計算します。

$\frac{¥12,000}{12カ月} \times 11カ月$
＝¥11,000

04)¥12,000－¥11,000
＝¥1,000

## 3 収益の繰延べ

費用だけでなく収益も繰り延べることがあります。この処理を具体例をあげて考えてみることにしましょう。収益の繰延べの処理についても、(1)利息などを受け取ったとき、(2)決算になったとき、の2つに分けて考えます。なお、繰り延べた来年度以降の収益を**前受収益**(まえうけ)といいます。




(1)受取時

**例4-3**

あなたは、X1年12月1日に貸付金の利息(向こう一年分)¥12,000を現金で受け取った。

このときには、**受取利息勘定(収益の勘定)の増加**として処理します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借)現金 | 12,000 | (貸)受取利息 | 12,000 |

この時点で、以下のように処理することはありません。
(現　　金) 12,000
(受取利息) 1,000
(前受利息) 11,000
あくまでも決算時に処理します。

(2)決算時

**例4-4**

X1年12月31日になり、決算をむかえた。

ここでは、収益の前受分があるので、受取利息 ¥12,000から来年の分の利息11カ月分(X2年1月1日から11月30日までの分)を差し引くために、**受取利息勘定の借方**に記入します。また、11カ月分の前受分を負債として処理する[05]ため、前受収益として**前受利息勘定(負債の勘定)の貸方**に記入します[06]。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借)受取利息 | 11,000 | (貸)前受利息[07] | 11,000 |

このように処理することにより、受取利息は当期分(1カ月分)の ¥1,000[08]となります。

05)この時点で貸付金が返済されると現金を返す必要があります。

06)すでに受け取っているため、負債として処理します。

07)収益の減少は借方に記入するのでしたね。

08)¥12,000－¥11,000
＝¥1,000

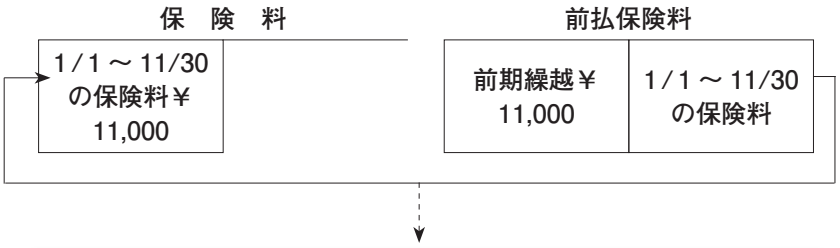
## 4 繰り延べた場合の再振替仕訳

### (1)再振替仕訳

決算において、繰延計上した収益、費用は次期の期首において、貸借逆の仕訳を行い、再び収益、費用に振り替えます。この処理を**再振替仕訳**(さいふりかえしわけ)といいます。

**例4-5**

1月1日、期首となり、再振替仕訳を行う。なお、当店では前期末に保険料の前払分 ￥11,000（11カ月分）を繰り延べている。




(借)保　険　料　11,000　(貸)前払保険料　11,000

### (2)期中の処理

通常どおりの、保険料の支払いの処理をします。

**例4-6**

12月1日、向こう1年分の保険料 ￥12,000 を現金で支払った。

(借)保　険　料　12,000　(貸)現　金　12,000

このときに、決して次のような仕訳は行いません。
(前払保険料) 11,000
(保　険　料) 1,000
(現　金) 12,000
このような処理を行わず、期中には通常の処理が行えるようにするために再振替仕訳を行うのです。

### (3)決算時の処理

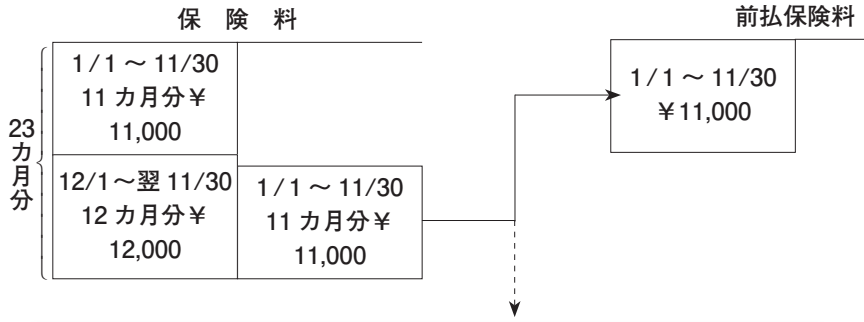
前払分の繰延べを行います。

**例4-7**

12月31日、決算となり、保険料の繰延べを行った。

決算の時点での保険料勘定は、**23カ月分が記帳**されており、このうちの次期分(11カ月分)を繰り延べます[09]。

09) このように、毎期継続的に処理している場合には、「再振替仕訳分＋当期支払分」が保険料勘定に記入されている点に注意してください。




(借)前払保険料　11,000　(貸)保　険　料　11,000

Try it 例題

## 収益・費用の繰延べ

決算日(12月31日)および翌期首における次の取引の仕訳を行いなさい。

(1) 保険料 ¥36,000は9月1日に1年分支払ったものであり、未経過分を繰り延べる。
(2) 受取利息 ¥15,000は11月1日に6カ月分を前受けしたものである。
(3) 翌期首となり、再振替仕訳を行う。

解答

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) | (借) 前払保険料 | 24,000 10) | (貸) 保険料 | 24,000 |
| (2) | (借) 受取利息 | 10,000 11) | (貸) 前受利息 | 10,000 |
| (3) | (借) 保険料 | 24,000 | (貸) 前払保険料 | 24,000 |
| | 前受利息 | 10,000 | 受取利息 | 10,000 |

10) $\frac{¥36,000}{12カ月} \times 8カ月$
＝¥24,000

11) $\frac{¥15,000}{6カ月} \times 4カ月$
＝¥10,000

## Section 4のまとめ

■収益・費用の繰延べ

**費用の繰延べ**

伏見商店は10月1日にむこう1年分の地代 ¥120,000を支払った。決算日は12月末日である。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (借) 前払 | 地代(資産の増加) | 90,000 | (貸) 支払 | 地代(費用の減少) | 90,000 |

$¥120,000 \times \frac{9カ月}{12カ月} = ¥90,000$

**収益の繰延べ**

淀商店は 10月1日にむこう1年分の家賃 ¥120,000を受け取った。決算日は12月末日である。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (借) 受取 | 家賃(収益の減少) | 90,000 | (貸) 前受 | 家賃(負債の増加) | 90,000 |

**繰延べの再振替仕訳**

翌期首となり、再振替仕訳を行う。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (借) 支払 | 地代 | 90,000 | (貸) 前払 | 地代 | 90,000 |
| 前受 | 家賃 | 90,000 | 受取 | 家賃 | 90,000 |

Try it 例題

## 収益・費用の見越し

**決算日（X5年12月31日）および翌期首における次の取引の仕訳を行いなさい。**

(1) 貸付金 ￥200,000はX5年10月1日に貸付期間2年、利率年6％で貸し付けたものであり、利息は9月末、3月末に各半年分を受け取ることになっている。利息は月割計算による。

(2) X5年12月分の家賃 ￥6,000が未払いとなっている。

(3) X6年1月1日、期首となり再振替仕訳を行う。

解答

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) | (借) 未収利息 | 3,000 08) | (貸) 受取利息 | 3,000 |
| (2) | (借) 支払家賃 | 6,000 | (貸) 未払家賃 | 6,000 |
| (3) | (借) 受取利息 | 3,000 | (貸) 未収利息 | 3,000 |
| | 未払家賃 | 6,000 | 支払家賃 | 6,000 |

08) ￥200,000 × 6% × $\frac{3カ月}{12カ月}$ ＝￥3,000

## Section 5のまとめ

■収益・費用の見越し

**費用の見越し**

京終商店は決算にあたり、利息の未払分 ￥30,000を計上した。

費用の増加　負債の増加

（借）支払利息　30,000　（貸）未払利息　30,000

**収益の見越し**

芹生商店は決算にあたり、家賃の未収分 ￥10,000を計上した。

資産の増加　収益の増加

（借）未収家賃　10,000　（貸）受取家賃　10,000

**見越しの再振替仕訳**

翌期首となり、再振替仕訳を行う。

（借）未払利息　30,000　（貸）支払利息　30,000
　　受取家賃　10,000　　未収家賃　10,000

Section 6

重要度 ★★★★☆

# 決算整理事項

## はじめに

いかに期中の処理が正しくても、決算のときに資産・負債・純資産・収益・費用の金額を修正しなければならないことがあります。例えば、有価証券の評価替えや減価償却です。このように会計期間中には正しい処理をしたけれども、決算のときに修正を必要とする事柄を決算整理事項(決算修正事項)といいます。
２級で出題されている決算整理事項について取り上げます。

## 1 決算整理事項とは

試験にもよく出ていますので、頑張っていきましょう。

**期中には正しく記入を行ったが、決算にあたって修正が必要な事柄を決算整理事項といいます。**過去に出題実績のある決算整理事項は、次のとおりです。

| 決算整理事項 | 学んだ Chapter、Section |
|---|---|
| 売上原価の算定 | Chapter11　Section 2 |
| 貸倒引当金の設定 | Chapter 7　Section 1 |
| 固定資産の減価償却 | Chapter 5　Section 1 |
| 売買目的有価証券の評価替え | Chapter 4　Section 1 |
| 現金過不足の処理 | ３級の内容 |
| 当座預金の処理 | ３級の内容 |
| 仮払金・仮受金の処理 | ３級の内容 |
| その他の引当金の処理 | Chapter 7　Section 2 |
| 繰延資産の償却 | Chapter 6　Section 1 |
| | Chapter 8　Section 1 |
| | Chapter 9　Section 2 |
| 社債 | Chapter 8　Section 1 |
| 消耗品費の処理 | Chapter11　Section 3 |
| 収益・費用の見越し・繰延べ | Chapter11　Section 4、5 |

## 2 決算整理の手順

復習をかねて、主要な決算整理事項の処理を確認しましょう。

決算整理前残高試算表（一部）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 受取手形 | 55,000 | 貸倒引当金 | 1,000 |
| 売掛金 | 35,000 | 備品減価償却累計額 | 6,000 |
| 繰越商品 | 25,000 | | |
| 有価証券 | 18,000 | | |
| 備品 | 30,000 | | |
| 株式交付費 | 3,000 | | |
| 仕入 | 300,000 | | |
| 保険料 | 9,000 | | |

### (1)売上原価の算定

**例6-1**

期末商品棚卸高は、次のとおりである。なお、売上原価は仕入勘定で算定する。

〔資　料〕

帳簿数量　460 個

原　　価　@￥50

**売上原価の算定**

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 仕　　入 | 25,000 | (貸) 繰 越 商 品 | 25,000 01) |
| (借) 繰 越 商 品 | 23,000 02) | (貸) 仕　　入 | 23,000 |

01) 前ページのＴ／Ｂにおける繰越商品￥25,000を用います。

02) @￥50 × 460 個 ＝￥23,000（期末商品棚卸高）

### (2)貸倒引当金の設定

**例6-2**

受取手形および売掛金の期末残高に、2 %の貸倒引当金を洗替法により設定する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 貸 倒 引 当 金 | 1,000 | (貸) 貸倒引当金戻入 | 1,000 |
| (借) 貸倒引当金繰入 | 1,800 03) | (貸) 貸 倒 引 当 金 | 1,800 |

03) (￥55,000 ＋￥35,000) × 2 %＝￥1,800

### (3)固定資産の減価償却

**例6-3**

備品について定額法（残存価額は取得原価の 10 %、耐用年数 6 年）により減価償却を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 減 価 償 却 費 | 4,500 05) | (貸) 備品減価償却累計額 04) | 4,500 |

04) 前ページのＴ／Ｂより記帳方法は間接法であることがわかります。

05) (￥30,000 － ￥30,000 × 10%) ÷ 6 年 ＝￥4,500

### (4)売買目的有価証券の評価替え

**例6-4**

有価証券の内訳は、次のとおりである（いずれも売買目的のために保有）。

| 銘　柄 | 原　価 | 時　価 |
|---|---|---|
| A社株式 | ￥ 8,000 | ￥ 7,500 |
| B社社債 | ￥ 10,000 | ￥ 11,000 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 有 価 証 券 | 500 | (貸) 有価証券評価益 | 500 06) |

06) 時価合計￥18,500
原価合計￥18,000
評価益　　￥500

(5)繰延資産の償却

**例6-5**

株式交付費は、当期の期首に新株を発行したときのものであり、3年間の定額法で償却[07]する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 株式交付費償却 | 1,000[08] | (貸) 株式交付費 | 1,000 |

(6)費用・収益の見越し・繰延べ

**例6-6**

支払保険料のうち、¥3,000は次期分である。なお、保険料は毎年1年分を前払いしている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 前払保険料 | 3,000 | (貸) 保険料 | 3,000 |

なお、翌期の期首に貸借を逆にした以下の仕訳を行います。

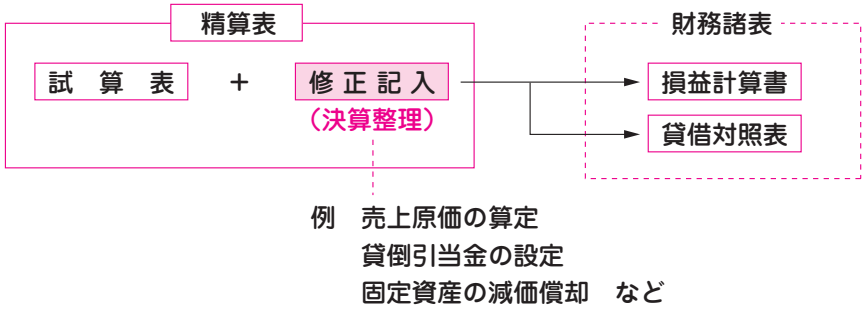
| | | | |
|---|---|---|---|
| (借) 保険料 | 3,000 | (貸) 前払保険料 | 3,000 |

この仕訳により前払保険料がなくなり、翌期の費用になります。

07) 繰延資産の償却期間は次のとおり。

| | |
|---|---|
| 創立費 | 5年以内 |
| 開業費 | 5年以内 |
| 株式交付費 | 3年以内 |
| 社債発行費 | 償還期間以内 |

08) $¥3,000 \times \frac{12カ月}{36カ月}$ ＝¥1,000

## Section 6のまとめ

■**決算整理事項**　期中には正しく記入を行ったが、決算にあたって修正が必要な事柄。